

能代山本だより

第29号（観光振興課発行第5号）

早いもので、また新たな年度を迎えました。

東京の桜は満開とのテレビ中継を見ますが、こちら能代の桜はもう少し先になりそうです。今年の暖冬の影響はさほどなく、「自然」は自然に調整するのかななどと感じています。

さて、4月は新人さんとの出会いがあるものですが、今年度、観光振興課は誰一人として異動がありませんでした。というわけで、今年度も引き続き（5名）どうぞよろしくお願ひします。

情報

3/1～4/3まで

イベント

木元、黒川、大倉の3氏を特別表彰

市制施行記念表彰式が21日開かれ、市自治会連合会長や市社会福祉協議会長を務めた木元実氏（83）＝景林町＝、能代市山本郡医師会顧問の黒川元氏（70）＝万町＝、和裁技能に卓越し「現代の名工」に選ばれた大倉栄子氏（60）＝落合＝の3人を特別表彰したほか、各分野で功績があった個人・団体や市内事業所の永年勤続者ら68個人3団体を一般表彰しました。

最優秀賞は小泉さん／市男女共同一行詩

男女共同参画一行詩の入賞作品が決まり、最優秀賞には、万町の小泉亮さんの「お互いが自立しながら支え合う そんな夫婦になれたらいい」が選ばれました。第1次選考を通過した133点を掲載する作品集も作成する予定です。

カメラマン席を新設／能代港花火大会

能代商工会議所の「能代港まつり花火大会実行委員会」の企画委員会（委員長・広幡信悦副会頭）で、7月21日に開催を決めている今年5回目の花火大会に向けた準備態勢などについて協議、確認し、全国の花火ファンへのアピールを狙いにカメラマン席を新設することにしました。

米国からダマッサ高が参戦 / 能代カップ

能代工高と国内外の強豪が相まみえる第20回能代カップ高校選抜バスケットボール大会（5月3～5日、能代市総合体育館）の参加チームが決まりました。20回の節目を記念し、男子は昨年に続きバスケの本場米国からダマッサ・カトリック高を招くほか、国内では延岡学園（宮崎）、明成（宮城）、市立船橋（千葉）の全国レベルの3チームが来能します。市立船橋以外は初参加で、例年より1チーム少ない計5チームでリーグ戦を行います。

リゾートしらかみ運行10周年記念

JR東能代が運行する五能線クルージングトレイン「リゾートしらかみ」が1日、運行から10周年を迎え、東能代駅と能代駅、あきた白神駅で記念イベントや観光PRを行いました。白神山地や日本海の雄大な景色を望む観光列車として県内外のファンを増やしてきたリゾートしらかみの“満10歳”の節目を、関係者や乗客らが祝福しました。また、同日から新たに停車駅の仲間入りをした岩館駅では、地元のボランティアグループが踊りを披露し、リゾートしらかみを出迎えました。

食

懐かしの味ドン菓子、根強い人気

「ドーン！」というごう音を響かせ、三種町志戸橋の農業、阿部正子さん（60）が「ドン（ポン）菓子」を製造しています。20年以上前から農閑期の冬季限定で作っており、白米を材料とした昔懐かしいオーソドックスなものから、マカロニや豆のドン菓子など、品ぞろえも豊富です。特徴は無添加で素朴な味、軽い触感で、三種町の「じゅんさいの館」などでも人気を集めています。

「鶴形そば音頭」がCDに

能代市の鶴形地域まちづくり協議会（小林吉郎会長）は鶴形小（工藤功校長、44人）を訪れ、作業に携わった同校に「鶴形そば音頭」のCDを贈りました。鶴形小に協力を依頼し、当時在任していた相澤朋彦教諭（現秋田大付小）が作曲。歌詞は同校の全校児童がふるさとのキーワードとなる言葉を挙げ、相澤教諭と一緒に言葉をつなぎ合わせて作詞しました。

農業

コンビニ名はANAN / JAやまもと

JA秋田やまもと（米森万寿美組合長）が3月28日に「JANびニ AN・AN」（じゃんびにあんあん）をオープンしました。

コンビニエンスストアの名称は、琴丘中2年の田村真子さんの作品が採用され、「AN」は安心・安全に由来する。安心安全の「安」に着目し、「よりしっくりくる」というローマ字「AN」で表しています。

バツケ味噌おにぎりが人気 / 杉ちよくん

農産物直売所・きみまち杉(さん)ちよくん内にある軽食施設「おにぎり屋」で、“春の風味”を地元産のご飯に包んだ「バツケ味噌(みそ)おにぎり」が人気です。バツケが出回り始めるこの時期に1年分の味噌を仕込むとあり、調理場に心地よい春の香りを漂わせながら、会員がバツケ味噌作りを続けています。

水稻直まき、普及進まず / 能代山本

県山本地域振興局農林部がまとめた能代山本地域の水稻直播(ちよくはん=直まき)栽培実績によると、今年度は面積約16ヘクタールで、前年度より微増したものの、全県8地区の中では鹿角に次いで2番目に少ないことが分かりました。最も取り組みが進んでいる仙北地区に比べると、面積は10分の1以下で、直播による生産者組織も県内で唯一、設立されていません。背景には「収量が劣る」「技術が確立されていない」などの農家の不安があることから、普及には不安解消につながる取り組みが求められています。

3品目の商標登録化を推進 / JA白神

JAあきた白神(袴田英明組合長)の臨時総代会で19年度事業計画案などが承認され、名前に「あきた白神」を冠したネギ、ウド、ミョウガの商標登録化(予定)に伴う規格の確立と有利販売の構築も目指すこととしています。

木材関係

秋木製鋼 40周年を喜び合う

鋳鋼品・機械加工組み立ての秋木製鋼(本她能代市中川原、佐藤繁夫社長)は9日、「設立40周年記念・新しき一步を標(しる)す会」を開き、業界行政関係者や取引先、地域住民、現役、OB、OG従業員ら約300人が出席し、これまでの歴史を振り返りながら、新たな門出を祝福しました。

委託販売見直しへ / 県天杉製材協懇談会

県天杉製材協議会(佐藤一之会長)は6日、新春懇談会を開催し、同協議会の運営委員、会員企業代表が、東北森林管理局関係者らと天然秋田杉の販売実績や、今後の見通しなどについて情報・意見交換しました。国有林材の委託販売について、管理局側は、新年度から「企画競争入札」に移行する方針を説明しました。

交通

空港再活性化計画 「空の駅」開設も

大館能代空港ターミナルビル(社長・小畑元大館市長)は、空港再活性化計画案を発表しました。搭乗客が落ち込む中で、にぎわい空港や「空の駅」などの計画を掲げています。近く開くテナント会社関係者との協議や取締役会などに提案して具体化を図る方針です。

春本番 防雪柵撤去作業が進む

能代山本地方の県道などでは、降雪期の役目を終えた防雪柵の撤去作業が行われ、道行くドライバーに春本番が間近に迫っていることを感じさせています。

「能代 仙台線」が“発車” / 秋北バス

秋北バス（本社・大館市、菅原邦行社長）の高速路線バス「能代 仙台線」の本運行が23日から始まりました。初日は能代バスステーションから21人、道の駅「ことおか」から2人の計23人が乗車し、まずまずのスタートを切りました。午前7時の出発を前に、発着地となる秋北バス能代バスステーションで出発式が行われ、地域住民らが運行開始を祝いました。同バスは、午前7時能代発・同11時35分仙台着と、午後4時20分仙台発・同8時55分能代着の1日1往復です。

開通半年、効果くっきり 琴丘能代道

琴丘能代道路能代南IC（インターチェンジ） 能代東IC）の開通で、能代市内の交通事故が約3割減少し、国道7号の能代高前交差点の渋滞が解消され、二酸化炭素の排出量削減にも一役かっていると国土交通省能代河川国道事務所が26日発表しました。市街地を通らないバイパス機能に無料化が追い風となって整備効果を引き出しています。

観光

台湾の旅行関係者が能代の酒造り見学

北東北3県が合同で招へい、3月5日から本県を訪れていた台湾の旅行エージェントら13人が6日、能代市鶴形にある喜久水酒造トンネル貯蔵庫を訪れました。日本酒への関心はとて強いようで、酒を熟成させるトンネルの機能や蔵元の思いを学び、台湾発ツアーの可能性を探りました。

また、当日は久しぶりに小雪が舞い、雪は珍しいとのことで、大変喜んでいました。

滞在型観光定着へ本腰 / 八峰町宿泊

八峰町の宿泊施設関係者を対象にした第3回宿泊施設連絡会議が開かれ、県の担当者から地域づくりの一環として行う観光のノウハウを学びました。能代山本に17年度観光で訪れた人の宿泊率5%（八峰町1.7%）は県内9地区中2番目の低さで、滞在型の観光が定着していない現状を表しており、旅行者の年齢層、メンバー構成、交通ルート、旅行目的などの動向を知ることが、観光を掘り起こすきっかけになることを認識しました。

温浴施設で二ツ井中心部の活性化を

二ツ井地域局で、二ツ井地区の商店街から要望されていた温浴設備をメインにしたコミュニティ施設の設置を模索するため、「二ツ井地区中心部コミュニティ施設研究委員会」（委員長・藤田定二ツ井地域局長）を発足しました。温浴などが楽しめるコミュニティ施設を商店街の核にしたいとしており、研究委員会では6月末までには「一定の方向付け」を行います。

18年観光誘客数、延べ140万人 / 能代市

昨年1年間の観光誘客統計をまとめました。市内の祭典・イベントや、施設・名所を訪れた人は延べ140万4千人余で、前年比約1万4千人、1・0%増と横ばいでした。イベントの誘客数が約2万人増加、温泉も健闘する中、施設やスポーツゾーンなどで見学・利用の落ち込みが響き、市内22カ所を対象に調査した宿泊客数は11万人を下回り、16・6%減でした。

体験教育旅行の受け入れ手法を探る

修学旅行の誘致に取り組む能代山本の市町と関係団体を支援する「体験教育旅行研修会」が19日、県山本地域振興局で開かれ、参加者は講演と事例報告を通して首都圏の修学旅行の受け入れ態勢整備や体験メニュー開発、連携組織の立ち上げなど、体験教育旅行の推進策を考えました。

関東の業者に譲渡へ / 森岳ゴルフ場

三種町の秋田森岳温泉36ゴルフ場を経営する秋田森岳温泉開発（本社同町）の経営破たん問題で、破産管財人を務める仙台市の弁護士事務所が、ゴルフ場の新事業者に市川ゴルフ興業（本社東京都練馬区、資本金1千万円、市川金次郎代表）を選び、譲渡する許可を仙台地裁に申請していることが27日までにわかりました。関係者は、連休前の4月末を念頭に「なるべく早く営業再開にこぎつけたい」としています。3/28記事

新名称は「能代駅前市場」 / 公設市場

元町の能代市公設小売市場（パルポートこうせつ）は、4月1日の民営化に伴い、名称が「能代駅前市場」に変わりました。市から移管される市公設小売市場協同組合（同日から能代駅前市場協同組合に改称）は「30年以上使われてきた“こうせつ”の名称がなくなることは残念だが、これまでと変わらず、地域に親しまれるよう運営していきたい」としています。

温泉、きょうオープン / ハタハタ館

大規模改修工事で1月15日から全面休館していた八峰町の第三セクター「八森いさりび温泉ハタハタ館」の1階売店・レストラン、別棟の温泉棟が1日、オープンしました。温泉施設では岩盤浴が整備されたほか、日本海を一望できる露天風呂などは前より風情を増した造りとなっています。広くなったレストランもメニューを増やしてサービスを充実させるとのことです。

自然

ホッケ釣りシーズン始まる

能代山本や青森県西海岸の地磯では、ホッケを狙う人々でにぎわいを増し始めています。暖冬の影響で例年より釣期はやや早まり、好ポイントとして知られる八峰町八森のチゴキ灯台付近の磯でも、町内外の太公望が連日さおを繰り出し、ウキの動きに一喜一憂しています。3/11記事

暖冬が道路管理にも恩恵

3月は例年、道路の補修が始まる時期ですが、今年は道路の痛みが少なく、関係者を驚かせました。県山本地域振興局建設部は、暖冬少雪に加えて「18年豪雪で補修が重点的に行われたことも理由にある」と話していますが、記録的な暖冬は、道路管理に思わぬ恩恵をもたらしています。

ファン一斉に入渓/溪流釣り解禁

県内の各河川で21日、溪流釣りが一斉に解禁されました。能代山本地方でも、この日を待ちわびていた溪流釣りファンが早朝から各河川のお気に入りポイントに陣取り、半年ぶりの魚信を楽しんでいました。

枝垂れ桜を植樹/関東のしろ会

関東周辺の旧能代市出身者が会員の関東のしろ会(高田政勝会長 PR大使)は24日、地域住民と一緒に能代市松山の県道能代五城目線沿いなど5カ所に紅枝垂れ桜15本を植栽しました。交流会も開かれ、枝垂れ桜が町並みに彩りを添える歴史の里の景観を思い描きながら親睦(しんぼく)を深めました。

開花予想 能代山本は15日すぎ

仙台管区气象台が28日、東北地方の桜(ソメイヨシノ)の開花予想を発表し、能代山本は4月15日すぎ、秋田市は同14日で、平年より5日早いとの見込みです。北部の一部は同20日すぎで、標本木がある秋田市の開花予想の14日は、昨年より7日早いとのことです。

きみまち阪公園は18日頃ではないかと観光振興課では予想しています。

海岸線に春のにぎわい訪れる

日に日に春めく能代山本地方。八峰町の海岸ではホッケ干しとアオサ採りの光景が見られるほか、海岸近くの斜面では山菜採りが始まり、地域住民がアザミやカタクリなど春の味覚との“出会い”を楽しんでいます。

行政関係

斉藤能代市長が年度始めの会見

斉藤市長は2日、年度始めの記者会見に臨み、「改めて新しい出発の日を迎えたなという感じ。まだまだ斉藤カラーが十分発揮できていないと思っている。2年目を迎えて勝負の年、後半の2年間につなぐ大事な1年間と思う。職員と意思疎通を図りながら後半戦の基礎となるよう、市政運営に当たっていきいたい」などと抱負を述べました。

能代市、富士通ゼネラルを指名停止

能代市は、市発注工事に関し履行不能により契約解除した富士通ゼネラル（本社・神奈川県川崎市、大石弘代表取締役）を1日から7月31日まで4カ月間の指名停止処分としました。同社東北情報通信ネットワーク営業部（仙台市）が市発注の二ツ井地域防災行政無線施設整備工事を受注したが、市の仕様書通りの施工ができなかったため、市は先月22日に履行不能を理由に契約を解除しました。請負業者側の事由による契約解除は、市の建設工事入札制度実施要綱で規定する「建設業者として不適当と認められたとき」に該当し、市が準用する県の建設工事入札参加者指名停止基準では、契約解除の場合は指名停止期間を4カ月と定めており、この基準を用いました。

議会関係

市民歌、新年度内に制定 / 能代市議会 3月定例議会

8日の本会議で、19年度一般会計当初予算案など上程議案15件の質疑、付託を行い、この中で、市当局は合併協議で「必要性を含め新市で検討」としていた新市の市民歌について、19年度内に制定し、20年3月のお披露目を目指す考えを説明しました。

新庁舎建設候補地絞り込みへ / 八峰町

八峰町議会の全員協議会は15日、町が八森、峰浜旧町村境周辺の2カ所で実施した新庁舎建設候補地のボーリング調査の結果を報告しました。候補地を八峰消防署近くの広域農道南側の水田と、国道101号沿線西側の目名淵グラウンド周辺の2カ所に絞り地質調査を2月末まで約1カ月掛けて行われました。

イオン出店関係

イオン進出にあたり / 能代市議会 3月定例議会

5日、5氏が一般質問を行い、イオン問題や中心市街地活性化策に論議が集まり、斉藤市長は「商店街、市民、行政が三位一体となって活性化の取り組みを継続的に行っていかなければならない」などと、行政主導ではなく民間と一体で取り組む姿勢を強調したほか、算定の甘さを指摘する声もある出店影響予測は、作り直す考えはないとしました。

また、斉藤市長は、「プラス、マイナスあるが、市、市民、能代山本圏域に有益と総合的に判断した」「議会への説明、団体への説明、シミュレーション公表などで説明責任は果たしてきた」などと答弁し、農振除外手続きを中断する考えはないとしました。

市が公開質問状に回答 / イオン出店問題

9日、市民グループの「能代まちづくり市民会議」が2月23日に提出したイオン出店問題にかかわる3項目からなる公開質問状について、文書で回答しました。市民会議の佐藤浩嗣代表幹事は「内容の吟味が必要だが、根拠の提示が希薄で質問に答えていない印象。市長の説明責任は果たされていない」と語りました。

「早期出店」陳情を不採択／能代市議会 3月定例議会

13日、各常任委員会で付託議案の審査を続行、環境産業委は継続審査となっていたイオン新能代ショッピングセンター（仮称）の出店早期実現を求める陳情を委員長裁決で不採択としました。一方で、出店予定地にかかる農振除外に関する予算が計上された19年度一般会計当初予算案は原案通り可決すべきものとなりました。

イオン店 容認、反対に分かれる

仮称・イオン新能代ショッピングセンターの出店予定地にかかる農業振興地域整備計画の変更について、能代市が関係5団体に求めていた意見書は、期限の15日までに提出されました。容認、反対両方の意見が上がっています。

イオン「早期出店」陳情は不採択／能代市議会 3月定例議会

最終日の20日本会議で、追加提案された人事案2件を含め55議案、議会提案2件をいずれも原案通り可決、同意を与えたほか、陳情・請願4件を採択（一部採択を含む）、意見書3件を可決し、閉会しました。仮称・イオン新能代ショッピングセンター（SC）出店の早期実現を求める陳情は、きん差で不採択としました。

イオン出店阻止へ責任／能代商議所

能代商工会議所の対イオン新規出店問題の戦略が鮮明になってきました。28日開催の通常議員総会席上で、「仮称イオン新能代ショッピングセンター問題について」をテーマに、「能代まちづくり市民フォーラム」（25日開催）までの経過報告の形で活発に意見交換し、出店阻止の戦術や、その責任を担う自覚から、真摯（しんし）な気持ちでまちづくりに一丸で臨む、という組織としての意思を再確認した格好となりました。

イオン反対でノボリ／まちづくり市民会議

能代まちづくり市民会議は、能代市内で「イオン出店反対」ノボリの配布を行っています。消費者・市民に「出店拒否」の意思を表明する目的で実施しているもので、中心市街地の商店街・会の店頭に300本の反対ノボリ旗をはためかす計画です。

教育・文化関係

鶴形小が「東北・水すまし賞」受賞

良好かつ快適な水環境の創造と保全に関して優れた活動をした学校に贈られる「18年度東北・水すまし賞」に能代市鶴形小（工藤功校長、44人）が選ばれました。同校は、珍しい生態系を持つモリアオガエルの研究を12年間継続しているほか、昨年度からは同研究に関連して鶴形地区を流れる姥懐川の水質調査も実施しており、その活動の成果が認められました。

市第1庁舎と議事堂が国有有形文化財に

市役所第1庁舎と議事堂が、国の登録有形文化財（建造物）に登録されることが決まりました。第1次大火（昭和24年）からの復興のシンボルが造形の規範となっているものと評価され、国の文化審議会（石沢良昭会長）が16日、伊吹文明文部科学大臣に登録有形文化財（建造物）に登録するよう答申しました。今回答申されたのは、全国で209件（103カ所）、本県では市第1庁舎と議事堂のみです。後日の登録原簿への登録で正式決定されます。

米田保育所、藤里幼稚園と統合

藤里町の藤里幼稚園と米田保育園が統合しました。過疎化や少子化などで米田保育園の園児が減少しており、統合によって集団ならではの幼児教育の充実を図ります。この統合によって同町の乳幼児保育は、藤里幼稚園と藤里保育園の2施設となります。米田保育園の閉園式は23日でした。

各分野の功績たたえる / 能代市制記念

第1回市制施行記念能代市表彰式が21日開かれ、特別・一般表彰合わせて71個人4団体に表彰状や記念品を贈呈し、それぞれの分野での活躍、功績をたたえました。能代市は、旧能代市と旧二ツ井町が新設合併し18年3月21日に誕生。市は市表彰規則を定め、毎年市制施行の日（3月21日）に、文化の向上や体育の振興、産業の開発振興、社会福祉の増進、市政への協力、民間企業等の永年勤続者（20年以上）らを表彰します。

能代市子ども館で開館20周年記念特別展

能代市子ども館の開館20周年記念特別展「能代の縄文展」が、同館1階ホールで開かれています。同館は今年、開館20周年を迎えるにあたり、さまざまな記念事業を用意しており、その一つとして、現在上映しているプラネタリウム「消えた南十字星～縄文タイムトリップ～」に登場する遺物や、市内の縄文時代の遺跡を知ってもらおうと同展を企画しました。館内には、市が所蔵している柏子所貝塚（同市柏子所）、杉沢台遺跡（同市磐）、麻生遺跡（同市二ツ井町麻生）などから出土した縄文土器や石皿、石斧（せきふ）、模造品の土面などが展示されています。

スポーツ・国体関係

青山さん、全米選手権優勝 / チアダンス

能代市臈淵出身で玉川大4年の青山里実さん（22）が所属する都内のプロのチアダンスチームが、米国フロリダ州で開かれた全米チアダンス選手権の一般（社会人）部門で、初優勝を飾りました。全米最大規模の同選手権の一般部門で日本人チームが初めて優勝したという快挙に、青山さんは「チアダンスの本場で認められ、本当にうれしい。もっと表現力を付けて上を目指す」と喜んでいきます。

国道沿線を花で飾り、国体盛り上げ

能代・山本「国道7号ふれあいロード」連絡会は、16日の総会で7号沿線の花壇作りを協議し、秋田わか杉国体盛り上げにつなげるため、ドライバーの視線に合わせて車道側からマリーゴールド(オレンジ色)、同(黄色)、サルビア(赤色)など色と草丈を考慮したひな壇状の統一レイアウトを決めました。植栽計画によると、サルビアなど3品種と、能代西高に栽培依頼したペゴニア(赤色)を加えた計1万3千本を8月3日に同連絡会の5個人70団体に配布し、7号沿線の緑地帯や花壇に花の苗を植栽して9月29日の国体開催に文字通り花を添えることとなります。

その他

中心商業地の“沈下”続く/地価公示

国土交通省は22日、1月1日現在の地価公示価格を発表しました。能代市は住宅地、商業地の全対象8地点で下落。全用途は1平方メートル当たり3万300円で下落率は5.6%となり、地価水準の落ち込みに歯止めが掛からない状態が続いています。ただ、下落幅は旧二ツ井町の住宅2地点でやや拡大したものの、旧能代市では1地点を除き縮小または横ばい。下落の動きにわずかな鈍化が見られました。

大森建設が風力発電システム販売へ

総合建設業の大森建設(本社・能代市河戸川、大森三四郎社長)は4月から、異業種交流・産学官共同開発事業として取り組んだスクリュー・マグナス風車の風力発電システム販売に乗り出しました。従来の風力発電施設市場に加えて新規の開拓分野に売り込みを図り、同社環境ビジネスの中軸に据えていく戦略です。

お知らせ

能代観光協会ブログ「能代でらっと情報」

能代山本地域の最新的话题を毎日、ブログで発信しています。

お近くのパソコンでぜひご覧ください。

能代でらっと情報URL http://blog.livedoor.jp/noshiro_kanko/

能代PR大使のみなさんの近況や身近な話題、気が付いたことなど遠慮なくお知らせください。

ファクシミリ	0 1 8 5 - 8 9 - 1 7 7 6
電話番号	0 1 8 5 - 8 9 - 2 1 7 9
Eメール	kankou@city.noshiro.akita.jp